紹介

第2回韓日複合材料シンポジウムに参加して

成 田 吉 弘*

第2回韓日複合材料シンポジウムが2001年10月18日、ソウル国立大学 (Seoul National University: SNU) において開催された。これは一昨年の北海道工業大学 (札幌市) の第25回複合材料シンポジウム (2000年10月5, 6日) において、初日に企画された第1回日韓複合材料ジョイントセッションが独立した形で開かれたものである。今回の参加者は、配布された名簿では64名であった。このうち日本側は18名であり、第1回の韓国側の参加者とはほぼ同数である。

写真 (図1) は Engineering Building (工学部ビル) から撮った SNU キャンパスである。ソウル市の南の溪谷を開発したキャンパスは自然の中にあり、写真上端の山の向こうはソウル市街である。キャンパスの最も奥にある会議場の Engineering House からは、対崖に美しい溪谷美も楽しめた。オープン間もないイチョン (仁川) 空港もそうであったが、キャンパスの工学関係の建物はみな新しいものばかりであった。

受付にて登録後 (図2) は開会セレモニーが持たれ、JSCM と KSCM 会長から挨拶があった。それから3セッションに分かれて、日韓双方の座長の下で1日合計37件の講演 (JSCM 15件, KSCM 22件) が行われた。

Session A は、「Fibers and Matrix Materials」 (JSCM 4件, KSCM 8件) 関係で、元木先生ら (大阪市大) と轟先生ら (東工大) からスマート材料関係、KSCM の KAIST や SNU からマイクロ力学関係の発表があった。

Session B の「Design and Applications」 (JSCM 7件, KSCM 5件) では、邊先生 (日大) や福田博先生 (東理大) のグループや、北海道からも振動関連の3件の講演があった。KAIST からは Prof. I. Lee や Prof. D.G. Lee らの複合材料構造の振動や波動に関わる研究が講演された。

Session C の「Processing and Durability」 (JSCM 4件, KSCM 9件) では、大阪市大のファイバーセンサーや、KSCM でもプロセス中のモニタリングに関する講演が多かった。

昼には SNU の工学部長も同席した昼食会が Engineering House 内のレストランで開かれ (図3)、その後に日本側と主な KSCM メンバーにより集合写真を撮影した (図4)。夕方のセッション終了後には、Prof. S. J. Kim (SNU) がガラスばりの Engineering Building のツアーをボランティアして下さった (図5)。建物内には生活に必要な機能がすべて入っており、溪谷のキャンパスで院生らが建物にこもって日夜研究に没頭する態勢が整えられていたのが印象的であった。また「Vision

図1 ソウル国立大学のキャンパス

図2 会場受付

* Yoshihiro NARITA: 北海道工業大学 (006-8585 札幌市手稲区前田7条15丁目)

図3 SNU工学部長らも交えた昼食会

図6 懇親会 (Prof. W.I. LeeとProf. J.H. Lee)

図4 会場の Engineering House 前にて

図7 Korea House での民俗芸能の鑑賞

図5 Prof. S.J. Kim (SNU)によるキャンパスツアー

図8 Prof. C.S. Hongのお宅にて

2001」という高校生・一般向けの啓蒙PRイベントが行われる直前で飾付け工事も進行中であった。

懇親会はソウル市中心にある有名な Korea House で開かれ、buffet形式の食事と日韓が交互に着席する配慮の中で、楽しい雰囲気ではじめられた。図6の写真左は今回の世話役である Prof. W.I. Lee (SNU)、右は第1回に韓国側の窓口となった Prof. J.H. Lee (Pusan Univ.) である。日本と同様(？)、韓国の複合材料分野

はハンサムな研究者が多いようである。

食事後、日本側参加者は小劇場に案内されて韓国の様々な民俗芸能を堪能した(図7)。こうした韓国側の hospitality は至る所で見られ、会議前夜には、Prof. C. S. Hong (KAIST 所長, KSCM 会長) が自宅に関係者を招待くださった(図8)。第1回の際にも拙宅に数名に来て頂いたが、今回は本格的な韓国料理が並び、大変なご馳走であった。新年に頂いた greeting card には十

分なご馳走ができなかったため皆さんにその旨伝えてほしいと記してあり、親しく客人を歓待する韓国の習慣を実感した。

あらゆる局面の日韓関係の重要性を考えると、双方に発展をもたらす複合材料分野の情報交換と研究者間の交流の継続が望まれる。筆者は第1回の世話役を務めた関

係で、今回も日本側の窓口になったが、周到な準備をされた Prof. W.I. Lee (SNU) を始め KSCM の方々に深く謝意を表する。また9月11日事件の直後の海外出張自粛ムードの中にも拘わらず、積極的に参加された大阪市大の関係者をはじめとして日本からの参加者にも感謝します。